

第 7 号 平成21年10月
発行 番町小学校同窓会
〒102-0085 千代田区六番町 8
東京都千代田区立番町小学校内
TEL 080-3012-1001 FAX (03)3263-3731
郵便振替口座 00160-7-352085
編集 番町小学校同窓会事務局
印刷 株式会社 精興社



今夏は真夏日が少なく天候も不順でしたが、季節は爽やかな秋を迎えました。同窓生の皆様には、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、今号は、昭和14年度学年理事 三浦清氏のご尽力により同級生お二方の原稿を掲載致します。お一方は日本における盲導犬の先駆者 河相洸氏、もうお一方は戦後日本の外交を担ってこられた大鷹正氏です。

チャンピイと共に

河相 洸

昨年の9月、『ありがとう！ チャンピイ～日本初の盲導犬誕生物語～』のタイトルで、盲導犬誕生までの物語がTVで放送され、視聴者に多くの感動と感銘を与えました。私も大変感動した一人ですが、この物語の主人公 河相洸氏は昭和15年3月、番町小学校と一緒に卒業した同級生です。

河相氏は戦後まもなく失明され、学業を一時中断されながらも復学して盲学校の先生になりました。そして、日常生活の必要性から盲導犬の育成を考え、幾多の困難と闘い乗り越えながら、今日の盲導犬活躍の基礎を築きました。

先駆者としての不屈の精神と達成するまでの懸命の努力を、同窓生の皆さんにお伝えしたいと彼に寄稿をお願いしたところ、闘病中にもかかわらず「番町のために少しでもお役にたてば」と快諾され、一文を頂戴致しました。

(昭和14年度学年理事 三浦 清)

河相洸氏

※ 略歴

- 1927年 カナダ共和国バンクーバーで生まれる
- 1940年 番町小学校卒業
- 1945年 慶応義塾大学旧制予科入学
2年後失明のため退学
- 1952年 復学
- 1956年 同大学文学部哲学科卒業
滋賀県立彦根盲学校に奉職
- 1960年 静岡県立浜松盲学校に転勤
- 1988年 同校退職、現在に至る

※ 著書

- 『僕は盲導犬チャンピイ』（偕成社）
- 『盲導犬、四十年の旅』（偕成社）
- 『大きなチビ、ロイド』（文芸社）
- 『ほのかな灯火』『花の雨』（自費出版）



ロイド号(4代目)と信州にて(H19)

私が小学校の時だが、ある新聞紙上に掲載された1枚の写真に目を奪われた。そこには1頭のシェパード犬が、1人の盲人と歩いている姿が写し出されていた。下の説明文には、「犬は盟邦ドイツから贈られた盲導犬、人は戦争（日中戦争）で失明した軍人である」と書かれていた。その時私は、始めて盲導犬の存在を知ったのだった。勿論、私が後年それに深い関わりを持つとは、知るよしもなかった。

だが運命の歯車は、時におかしな回転をする。慶応大学旧制予科に入学して程なく、私は失明した。当時の私にとっての最大の難事は、矢張り歩行の問題だった。人に頼らず、より広く、より安全に歩くことは出来ぬものかと私は思案した。その時記憶の底から鮮やかに蘇ったのは、番町時代に見たあの写真であった。「よし、これで行こう。」私はそう腹を決めた。だがドイツから来た犬は既に死亡、その跡継ぎもない。アメリカ、イギリスにでも赴けば手に入るのだろうが、当時はその余裕がなかった。何としてもこの日本で誕生させなければならない、それが私の夢だった。

1955年、一アメリカ人から、自分の家で生まれたシェパードの子犬を盲導犬に育ててはどうかと薦められ、それが一つの転機となった。その頃日本に盲導犬の訓練施設はなかったし、個人として扱う人も知らなかった。だがやりだせば何とかなるだろうと、私は賭けに出たのだった。やがて我が家にやってきた子犬の名はチャンピイ、私は彼

と起居を共にする一方訓練士を求め、八方手を尽くした。その結果、盲導犬に深い関心を抱いている訓練士に巡りあったのだ。その人の名は塩屋賢一、彼の名を以て日本盲導犬史は語れない。

大学卒業後、私は滋賀県立彦根盲学校に奉職、チャンピイは塩屋愛犬学校に入学した。幸い彼は素質に恵まれ、その上塩屋さんのひたむきな努力によって、入学1年後盲導犬としての技量を身に付ける事が出来た。チャンピイが独立し得るか否かは、私との歩行訓練の成否に懸かっていた。

1957年8月、私達は実家のある東京大森付近を中心に、3週間に亘る歩行訓練に入った。その年の夏は酷く暑かった。しかし、共通の目的に向かい、私達は固く結び合っていた。訓練開始後10日目、塩屋さんは私とチャンピイだけで郵便局に赴き、切手を買ってくるようにと指示をした。私は、その日が来るのを心待ちにしていたのだ。池上郵便局は、我が家から20分ほどの所にある。私達は訓練中その辺りを通った事があるので、難なく探し当て、切手10枚を買うと我が家への道を急いだ。玄関で待っていた塩屋さんに、私は手にした切手を振って見せた。彼は駆け寄り、「やりましたね！」と一言言うや私の手をしっかり握った。この時こそ、日本において、日本人の手による盲導犬が誕生したのだ。

歩行訓練終了後、私達は任地彦根に戻ったが、チャンピイは輸送用の箱に入れられ、重さを量り、料金を取られた上、私達が乗る急行「浪速」の最後部の貨車に積み込まれた。当時はその方法しか認められていなかったのである。炎暑の下、7時間にも及ぶ旅は、チャンピイには堪え難かったであろう。彦根駅で箱から出された時、彼がバケツ1杯の水をがぶ飲みにしたのは、未だに記憶に新しい。駅外に出たところで私達が第一に経験した事は、タクシーの乗車拒否であった。やっと4台目の車にチップをはずみ、漸くにして我が家にたどりついたのである。



彦根盲学校教室にて (S33)

2学期も始まり、私とチャンピイは学校に通う事になったが、学校迄は、チャンピイの早足なら15分程度で行ける。道も単純であり歩行に問題はなかった。ただ私はこれを繰り返すだけではいけないと思った。

休日になると私達は必ず外出し、町中を歩き回った。これはチャンピイの能力を高めると共に、市民に盲導犬を理解してもらう為であった。当時の彦根は、人口5万の小都市である。時には郊外まで足を運び、帰りには商店で買い物をし、店の人たちと雑談をする。そうした時チャンピイは、私の傍らで伏せた姿勢でじっとしていた。こうした日々の積み重ねが、最初は「何となく恐ろしい犬」と見られていたチャンピイをして、「盲学校の先生を案内する利口なお犬さん」との評価を受けるに至った。妻が市立病院で出産した折私は毎日チャンピイと共に見舞ったが、院内で咎められた事は一度もなかった。これは市民の鷹揚さと言うより、チャンピイがよく理解された結果だと思う。



彦根城「いろは松」の下をチャンピイと歩く (S33)

家庭にあつてはチャンピイは全く自由であつたが、生まれて間もない娘がベッドの中で泣くのが気になるのか、彼は傍らに座り、「どうしてそんなに泣くの」とじっと見守る優しい犬であつた。

チャンピイは名犬であつたが、彼の時代には公共の交通機関が利用できず、その活動範囲が制約を受けていた事はかえすがえすも残念である。しかし、今やその枠も外され、多くの視覚障害者が盲導犬と共に自由に活動している。これもチャンピイを初めとし、後に続く犬達が揺るぎなく歩んだ結果であろう。私は自分が投じた一滴が大海となった事に深い喜びを感じている。

(写真：ご本人提供)

※ 塩屋賢一氏

1948年、盲導犬育成を志すが文献はほとんどなく、1ヶ月完全な目隠し生活をおくるなどゼロからのスタートだった。盲導犬の育成方法を模索し、1957年夏、チャンピイと河相洸氏との訓練を終え国産第一号の盲導犬が誕生した。その後、多くの視覚障害者とアイメイトのペアを世に送り出した。1971年、「財団法人東京盲導犬協会」を創設。『盲導犬

は視覚障害者の目である』というポリシーを貫き、1989年「財団法人アイメイト協会」と名称変更。1096組のペアが、協会を巣立っている。

「アイメイトと生きる」（出窓社刊）ほか著書多数。

（財）アイメイト協会HP

http://www.eyemate.org/our/our1_2.html

※TV番組「ありがとう！ チャンピイ

～日本初の盲導犬誕生生物語～

原作：盲導犬チャンピイ

～日本で最初にヒトの眼になった犬～

桑原崇幸著 新潮文庫

亡き双子の兄 弘を思って

大鷹 正

弘と私は、1928年、人見絹江さんが大活躍したアムステルダムオリンピックの年にハーグで生まれた。父 正次郎がハーグの日本公使館に勤務していた時で、公使の広田弘毅さん（後の外相、総

理）が名付け親になり、長男に御自分の名の一字の弘、次男の私に父の名の一字をとって正と名付けられた。オランダで過ごした4年間は、



弘と私、弟、母 龍田丸船上にて（S10）

英国人の乳母に世話になった。

帰国後1年で父がブラッセル（原文のまま）の大使館に赴任した為、一家は先ず太平洋をシアトルに船で渡り、次いでアメリカ大陸を列車で横断、大西洋をまた船で越えた。ブラッセルではカトリックの幼稚園に入ってフランス語を習い、その後カトリックの小学校に2年生までいたが、お互いに「モア、プルミエ！」（僕が一番だったよ！）と母に自慢していたようである。其の母と、子ども達の世話の為一緒に来ていた御茶の水高女の卒業生に交替で漢字の『書き取り』の特訓を受け、「フーフー」言っていたことを思い出す。

1935年、ブラッセルでは万博が開催され、其の行事の一つに各国の少年少女が数名ずつジョセフィン・シャルロット王女（後のルクセンブルク大公妃）とボードワン皇太子の前を国旗を担いで行進し、両殿下と握手をする催しがあり、弘と私が日本代表として行進して両殿下と握手をした。多分弘は国王と握手をした最初の日本人で、私は2番目ではないかと思っている。

間もなく父が新京（現在の長春）の大使館に転任し、家

族も同行した。新京では八島小学校に入ったが、ブラッセルでの「書き取り」のお陰で勉強は余り遅れずに済んだ。新京滞在は短く、満



筆者と夫人（S60）

鉄の「アジア号」に乗って大連経由で帰国し、暫く東調布第二小学校に通った。その後、父が青島総領事となったので青島第二小学校に転校したが、日中戦争が始まったので内地に引き上げて半年余り鎌倉の御成小学校に通い、日本軍が青島を占領したのでまた青島に戻った。

二人は5年生になっていたが、間もなく父がバルト三国の公使に任ぜられたので帰国。進学準備の為祖父母の家に預けられ、番町小学校に転入した。母は、日本出発の前に二人の進学先について担任の佐藤真澄先生と相談し、武蔵高校尋常科への受験が決まった。ところが、私が親しくしていた同じクラスの中田大乘君から陸軍幼年学校を一緒に受験しようとの強い誘いがあり、山中峯太郎の『星の生徒』等を読ませてもらって私もその気になり、その為の予備校的な成城中学校に願書を出し直した。そして、弘も私もそれぞれ合格したが、父は私の選んだ道に大変不満であった。しかし、時既に遅しで、渋々認めてくれた。

翌1941年、私は中田君と共に東京陸軍幼年学校に入校、弘と私は生まれて初めて違う道を歩み出した。太平洋戦争が勃発した年でもあった。

1945年8月、私は陸軍航空士官学校から復員し、父母兄弟のもとに帰り旧制高校の転入試験を受けた。その際有益な助言や参考図書等を提供してくれたのが、弘であった。お陰で都立高校文科に合格し、弘に1年遅れて東大法学部に進学した。弘は卒業後、国際弁護士を目指して司法試験の為の勉強を始めた。しかし、1949年復活された外交官試験に私が合格し、翌1950年から外務省員として研修生活を始めた私の話に刺激され、その年の外交官試験に合格、ガリオア留学生試験にも二人揃って合格し、1951年の夏、弘はエール大学、私はジョージタウン大学に留学した。再び双子の兄弟が、外交官という同じ道を歩む事になった。外務省での最初の任地は弘がニューヨーク国連代表部、私はロンドンの大使館であった。

私は27歳で結婚していたが、其の数年後、弘が李香蘭（山口淑子）さんとニューヨークで交際しているらしいとの噂を耳にしたこともあった。突然弘から手紙が来て、李香蘭さんと付き合っていること、自分のラブライフが絶頂にあ

る事が書かれていた。間もなく弘はビルマ（当時）の日本大使館に転任となり、淑子さんとラングーン（当時）で結婚した。



弘夫妻と筆者夫妻 家族と共に

我々兄弟は全員犬好きで、弘はジュネーブの国連代表部勤務時代、淑子さんと5匹のスコッチテリアを飼っていた。弘はアジアの国々が好きで、淑子さんとの結婚式を挙げたビルマに最後の大使として赴任したが、当時参議院議員であった淑子さんが東京で日本・ビルマ協会の会長をされ、二人に対するビルマ側の信頼が篤かったことは第三者の方から何度も聞いた。弘はこのポストにいる時から身体に異常を覚え、それがパーキンソン氏病と診断されたので、一切の再就職も断り療養と悠々自適の生活を送ったが、2001年静かにこの世から旅立った。昔、小学校2～3年の頃か、弘が私に二人のどちらかが先に死んだら、死とはどういうものか教える事にしないかと言ったので私も承知した事があったが、これは実現困難のようで、未だ弘から連絡はない。

(写真：ご本人提供)

昭和14年度卒業同期会の報告

同期会幹事 三浦 清

従来5年に1度であった同期会を、老い先短いから出来るだけ多く会う事にしようと2年に1回開いている。今回は、平成20年10月15日に恒例の新橋「新橋亭」で開催した。当初は24名の出席予定で前回より多いと喜んで居た所が、入院手術、体調不良、急用、開催日度忘れなどの欠席により5名少ない19名の出席となり、幹事としては些か残念であった。

しかし女子の幹事や渡辺（青柳）さんのご努力で女子の出席者が9名と増え、お陰で席も男女交互に配し、和やかに全員が近況を語り、ゆっくりと懇談する事が出来た。更に遠路はるばる熊本より蔵原（直）君、倉敷より田辺君が駆けつけ、会を大きく盛り上げてくれた。

我々の会では、新名簿の他に欠席者の近況報告を（欠席の葉書の回覧ではゆっくり読む暇が無いので）原文のままパソコンで清書印刷し、各人に手交して喜ばれている。親しかった旧友との連絡のきっかけになったとの報告もあった。

返信の欠席理由の大半は、種々の病気治療、足腰の痛み、体調不良である。年齢80を過ぎた末期高齢者であるから当然かもしれない。この辺で同期会もお開きにしたら如何かとの意見もチラホラ出ているので、次回をやるか否かを出席者に諮った所全員一致で開催希望となり、今回は22年秋に決定、再会を楽しみに散会した。



筆者（1列目左端）

《Home Coming Day》

(HPから再録)

平成20年12月6日（日）午後、例年通りHome Coming Dayを実施しました。

例年と違った点は、「その日に同期会を開催しませんか」との事務局の呼びかけに手を挙げて下さった昭和33年度、43年度、52年度（卒業丸30年です！）の各期と、卒業20年目を迎える62年度の同期会が開かれたことです。

会長・事務局長の挨拶の後、お茶とお菓子で歓談が始まりましたが、資料室の写真や資料を見てひとしきり盛り上がり、あっという間の2時間でした。最後に『われらがかぞせる』、『創立記念日の歌』を全員で歌い、散会後は学年毎に次の会場へ向かいました。



Home Coming Dayと 卒業30周年記念同期会

2005年、今から4年前。私たち昭和52年度卒（105回生）の音楽専科の先生であり、1・2年時に4組の担任でもあった岩上廣志先生の出版記念の会があり、多数の仲間が集まった。その時に参加していた岩田君から、「自分たちは3年後の2008年に番町小学校を卒業してからちょうど30年になるよ。その時に大きな同期会が出来ないかな？」との提案が出された。3年後・・・結構先の話だと思いつつも、早速酒井君とプロジェクトチームを立ち上げた。

みんなを集めるためには住所録の再整備をしなくてはならない、岩上先生の出版記念の時に使った名簿はある。しかし、頻りにクラス会等をやっている、数年前に目黒君が細かく調べてくれた4組の名簿は比較的整備されていたが、他の3クラスについては心細い限りだった。インターネットの同窓会サイト「この指とまれ」や「mixi」に同期会の告示をしたり、自分たちのホームページの作成にも取り掛かったりした。また、この頃から番町小学校同窓会の幹事会にも参加させていただき、各種情報の収集も行った。

同窓会で「Home Coming Day」で特定の学年の呼びかけに協力するとの話があり、昭和52年度（105回生）としては渡りに船とばかりにこの企画に立候補して、同窓会本体の強力なバックアップを得ることとなった。今から思うとあつという間の3年間で、住所録の整備も満足のものではなかったと反省しているが、まさに30年ぶりに連絡の取れた仲間もいて、一定の成果はあったと思う。が、逆に仲間が亡くなっていたという悲しい現実にも遭遇してしまい、心を痛めたりもした。

いつもは集まりの良い4組のレギュラーメンバーの都合が悪く、当初考えていた程の人数は集まらなかったが、本当に30年ぶりの仲間、遠く新潟から駆けつけてくれた仲間、途中転校で卒業アルバムの名簿だけでは追いかけることが出来なかった仲間など懐かしい顔が揃った。また、4組の話を中心に他のクラスも旗振り役を決めて、順次クラス会を開催する方向も決めた。

当日、卒業40年の先輩、50年の先輩方を見て卒業30年では「我々はまだまだひよっこだ・・・」と感じた。また、昭和42年度卒（95回生）の先輩に3年前に言われた「今はまだ仕事や家庭が忙しくてなかなか集まれないかもしれないが、50歳・60歳になって集まりたいと思った時に集まれるよう、今から名簿の整備をきちんとしておきなさい」との言葉をしっかりと受け止め、これからも定期的に集まり

情報交換・収集をしていきたいと思う。

最後に、今回絶大なる協力をして下さった番町小学校同窓会の役員の方々に感謝の言葉を添えてまとめたいと思います。「本当にありがとうございました。自分たちだけではこの卒業30周年同期会は開催できなかったと思います。」



卒業から49年と8ヶ月ほど

「卒業50年を記念して、母校のHome Coming Dayに集まりませんか」という同窓会事務局の誘いがあった。我々昭和33年度卒（昭和34年3月卒）は、正確には49年と8ヶ月ほどなのだが、アバウトな世代とアバウトな同窓会事務局で意気が合い、その気になって各クラス幹事に同期会開催を呼びかけた。前回の同期会は2年前、そろそろ開催すべき頃だったのであろう、短期間の呼びかけであったが28名が母校講堂に集合した。還暦を過ぎ暇が増えたのか、こういう集まりが好きなのか、他の年次よりも多かった。

同窓会会長の挨拶の後、おしゃべりタイム。三々五々、資料室を見学。給食のミルク容器は、忘れもしない脱脂粉乳の思い出に直結し、ひとしきりの話題であった。また6年2組の文集があったとかで同クラスは感激していた。資料室のある地下は、かつては石炭ストーブ用の貯炭場であったとか、震災の後遺症なのか水がたまっていたとか、昔話は尽きない。小学校ではさすがにアルコールはご法度であり、乾き物とお茶では長続きせず、集合写真撮影、校歌斉唱のあと、母校を後に二次会へ。四谷駅前のスクワール麹町は、元の消防署で、火の見櫓に登った思い出もある場所。メンバーが増え、35名となり、アルコールと食事で一息ついた。夕焼けをバックにした富士山が美しい。ここも時間が来て、三次会は四谷へ。四次会、五次会まであり、10人ほどが最後まで残る。話は尽きないが、さすがに終電車の頃には散会した。未だに元気なオジサン・オバサンたちである。

集まるきっかけを作ってくれた同窓会事務局に感謝します。また、次の年次へ繋がっていくといいと思う。昭和34年度卒（昭和35年3月卒）の方々、アバウト50年「アバファイフ」で集まってみてはいかが。

——昭和43年度卒同期生の
感想集より——

- ・変わった番町小学校校舎を見ることが出来てよかった。
- ・資料室に昭和43年度の卒業アルバムが保管されていなかったが何故？



- ・返信葉書が入っていたので来校してみたが、まとまりがなく終わってしまった。
- ・この機会を持って、クラス会や仲間の情報交換が出来たので良かったのではないかな？
- ・同期会をするのなら、わざわざ学校に集合する必要はない。

でも、お陰様で何十年ぶりに顔を見る事ができた友人がいました。

来年からこの様な形でHome Coming Dayをしてゆくのですか？徐々にでも定着していくと、この日が賑やかになりますね。

《1年間の活動》

同窓会 U-20

平成21年3月29日（日）午後、平成20年度 同窓会U-20（21歳以下の同窓会）を開催しました。当日は、卒業したて

の6年生はもとより中高生・大学生が200名近くも集まり、恒例のビンゴで一喜一憂。

その後は、講堂でお喋りしたり友人と校庭でバスケットやサッカーに興じたり。久しぶりの友人との再会を楽しんでいました。



番町子ども会

平成21年9月12日（土）午後、「番町子ども会」が開催され、同窓会は『駄菓子屋さん』で参加しました。ルーレットでお菓子の数が決まると、子どもたちはさっそく沢山の種類の中から好みの駄菓子を選んでいきます。好まれる駄菓子の種類が毎年違うので、あっという間になくなってしまふ嬉しい誤算もありましたが、子どもたちからの「有難う！」で準備の大変さも疲れも半減します。

【事務局から】

- ☆ ベルマーク収集にご協力下さった皆様、有難うございました。（順不同）
蔵田隆之さん、廣瀬千尋さん、中村香織さん
- ☆ 今後もベルマークを収集し、愛育会に協力してまいります。下記までお送り下さい。送料につきましては、ご寄付頂ければ幸いです。
〒102-0085
千代田区六番町8 千代田区立番町小学校内
番町小学校同窓会事務局 ベルマーク係
- ☆ 同窓会HPのアドレス <http://www.bancho.cc/>
年間行事の予定やニュースなどを載せています。また、同期会やクラス会の連絡などにもお使い頂けます。住所変更などもご連絡頂けます。
(<http://www.bancho.cc/toiwase.html>)

- 平成21年度 Home Coming Day は、12月5日（土）14：30～ 番町小学校講堂で開催します。
資料室もご覧になれます。どなたでもご参加頂けますので、お気軽においで下さい。
- ※ 同期会を開催する学年は、昭和36年度、44年度、63年度です。返信葉書が入っていますので、参加・不参加をご返信下さい。
- 同窓会U-20（平成13年度～平成21年度卒業予定の現6年生が参加）は、平成22年3月28日（日）14：00～ 番町小学校講堂を予定しています。

題 字：故 内田禮江さん（昭和19年度卒）
校章デザイン：鈴木健之さん（昭和45年度卒）

番町ジュニアバンド (BJB)

番町小学校BJB担当 宮下憲一郎

「継続は力なり」の合い言葉のもと、毎朝7時40分から30分間練習しています。短い練習時間を効率的に使い、みんなで楽しく協力して練習しています。本年度の団員数は、72名です。編成は金管バンドの形態をとっています。発表の場は学校行事はもとより、地域のイベント等にも積極的に参加しています。本年度は上智大学同窓会主催「オールソフィアの集い」に招かれ、演奏することができました。団員の保護者で構成する後援会も組織されており、子どもたちの活動を物心両面から支えてくださっています。

BJBの発足は今から20年前。音楽委員会、器楽クラブが発展し、現在のBJBとなったと聞いています。音楽委員会、器楽クラブまでさかのぼると、40年以上の歴史あるバンドということになります。同窓生のみなさんの中には器楽クラブ・音楽委員会・BJBで活躍された、楽しい思い出を持っている方々もたくさんいらっしゃると思います。現在の子どもたちも大きくなってBJBでの楽しい思い出を胸に、音楽大好きな心優しい大人になってもらいたいと思ひ、指導しています。

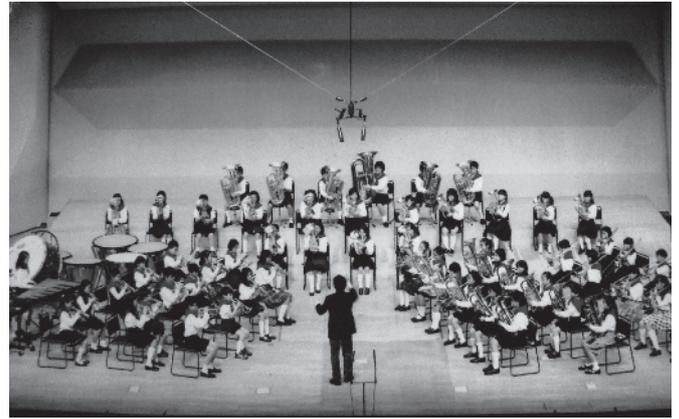
現在の大きな悩みは、伝統あるバンドだからこそその楽器の老朽化です。大切に先輩から後輩に受け継いできた楽器ですが、老朽化には勝てず、もっとよい状態の楽器ならば子どもたちが苦勞せずに上達し、楽しく演奏できるのにとすることもよくあります。

現在、後援会の支援を全面的に受け、念願でありました楽器の大修理を昨年度末から行っています。子どもたちから集めている活動費の一部を使い、地道に行っていました。そして、その成果は本年度の運動会で実証することができました。「音が変わりましたね」「柔らかくてクリアーなサウンドになりましたね」等々たくさんのお褒めの言葉をいただき、大変嬉しく思っています。

しかし、団員数が多いことと、老朽化が激しく、修理して使うよりも新しい楽器を買ってしまった方がよい場合もあり、現在すべての団員がよい状態の楽器で活動できているわけではありません。また、公費による楽器の買い換え・修理等も大変厳しい状態です。

ぜひ同窓会のみなさまのお力添えをいただき、一人でも多くの団員がベストの状態での練習が続けられる環境を作ることができれば、大変有難いです。どうぞよろしくお願いいたします。

最後になりますが、BJBの素晴らしさはなんといっても団員一人一人のがんばりです。毎朝早起きし、朝練習に参加している一人一人が楽しく充実した時間を過ごしてほしいと、心から思います。そんな素敵な時間を過ごしている団員は、自然に輝きます。そんな団員がたくさんいるBJBも、輝きます。その輝きで番町小学校も輝きます。光り耀く子どもたちに、幸あれ。BJBのさらなる飛躍を目指して。



平成20年度収支決算報告

1. 平成21年 3月31日現在の財産目録 (単位: 円)

資産の部		負債の部	
手元現金	50,992	事業準備引当金	4,300,000
普通預金	3,834,105	記念事業準備引当金	0
定期預金	4,300,000	正味財産	3,885,097
資産合計	8,185,097	負債・正味財産合計	8,185,097

2. 平成20年 4月1日から平成21年 3月31日までの収支計算書 (単位: 円)

収支決算書

前期繰越金	3,695,375円
収入金	3,235,758円
支出金	3,046,036円
当期収支差額	189,722円
次期繰越金 (前期繰越金 + 当期収支差額)	3,885,097円

収入の部 (単位: 円)

卒業生入会金	89,000	20年度卒業生89名
会費	2,030,000	
寄付	1,111,300	284件
雑収入	0	
利息	5,458	
収入合計	3,235,758	

支出の部 (単位: 円)

活動費	278,323	会議、番町こども会、U-20など
慶弔費	26,913	香典、花、弔電など
通信費	153,979	案内葉書、携帯代
印刷・事務費	298,306	封筒印刷、事務用品
会報作成費	1,118,460	会報作成、郵送代含む
インターネット関係費	5,700	ドメイン更新
備品費	161,640	プリンター、ハードディスク
事業準備引当金 繰入額 (定期預金へ)	1,000,000	周年行事費用 他
雑費	2,715	振込手数料
支出合計	3,046,036	

以上の通り報告致します。

平成17年 3月30日

経理 片岡 勝吾
津田真知子

「ホテル龍名館東京」

2009年 6月 1日オープン!!

東京駅から徒歩 3分!

☆特典☆

ホテルで宿泊料金の
基本室料から 20%OFF!!

最上階 15階のメインダイニング
「しゃぶしゃぶ/日本料理花ごよみ」

ディナータイムのご利用の際に
1グループ様につき、3,000円
値引きさせていただきます!

有効期限 平成22年6月末日



代表取締役社長 浜田敬男
昭和41年度(昭和42年3月)卒業

・ご来店の際は事前にご予約頂きますようお願い致します
・ご予約の際に「番町小学校の会報を見た!」とお知らせ下さい
・他の特典との併用は不可となります



ホテル龍名館東京
HOTEL RYUMEIKAN TOKYO

〒103-0028 東京都中央区八重洲 1-3-22
お問い合わせ 03-3271-0971
http://www.ryumeikan-tokyo.jp/

○番町ジュニアバンド (BJB) は、学校行事はもとより地域のイベントや発表会などでその腕前を披露していますが、その素晴らしい音色は毎日のためめ努力で生みだされているようです。

この度、担当の宮下先生にご寄稿頂きましたが、活躍しているBJBの抱えている現状をご理解頂けたかと思ひます。器楽クラブ・音楽委員会・BJBで活躍された方々のみならず、同窓生の皆様にはぜひ応援して頂ければと思ひます。具体的には、お手元にある使わない楽器や修理代などのご寄付をお願い出来ればと思ひます。ご連絡をお待ちしています。

○番町小学校には、他にも番町エンジェルス (野球) が活躍しています。また、交通少年団、海洋少年団に入団して頑張っている子どもたちもいます。どうぞ暖かく見守って下さい。

○会報に、左記のように会社、事務所、教室などの広告を出してみませんか。何十年ぶり、小学校の友達から連絡があるかもしれません。

※どちらもご連絡は下記迄お願い致します。

事務局携帯080-3012-1001